

玉川 つばめ 通信

take free
無料



題字・イラスト/金子伸子 デザイン/葉田いづみ 執筆/玉川大学地域創生プロジェクトメンバー 編集協力・発行/宇野津暢子 印刷/レトロ印刷Jam
【お問い合わせ先】nu821@zj9.so-net.ne.jp ☎090-3473-3872
*玉川つばめ通信増刊号は3000部印刷し、配布しています。

ごあいさつ
玉川大学4年生がつくる増刊号です

玉川大学に通う最後の年に教育学部の9人でつくれた玉川つばめ通信です。今までは、緑豊かで静かなまちという印象を玉川学園に抱いていました。しかし、町五小を訪ねたり、地域の活動についての話を聞いたりするうちに、活気のあるまちだということがわかりました。学生から見た玉川学園が感じられる記事をぜひ、お楽しみください! (平)

気になる 場所訪問

玉川学園周辺で見つけた!

特別編 ぬぼこ山神社



女坂に面しているぬぼこ山の参道入り口。竹林に囲まれていて見つけにくい

DATA
町田市玉川学園7-8-15

玉川学園で唯一の神社、ぬぼこ山本宮の境内で開かれていた「お庭カフェ」を訪問。
玉川学園地区社会福祉協議会の井上宮子さんと集まった近隣住民の方々に話を聞きました。(本、岡)



ぬぼこ山とは珍しい名前ですが、由来を教えてください。

「ぬぼこ」とは霊威のある御剣(みつるぎ)のことだそうです。まつられていた神様は有名なササノオノミコトです。元々は吉備(岡山県)の抜剣山(ぬぼこ山)にあった社が移ってきて、万葉仮名を当てて「瓊寶庫山本宮」としたそうです。参道の

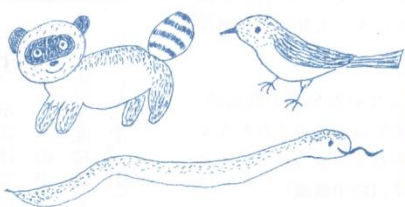
入り口には、神社の歴史について書かれている看板もあります。
皆さんはここに参拝されるのですか?
そうですね。例年、初詣の時期になると地域の人たちが大勢参拝します。その時期は御神酒もいただけます。また、参拝以外にも「お庭カフェ」のようなイベントをときどき開催しています。

駐車場で行われている「お庭カフェ」はどういう目的で始まったのですか?
「お庭カフェ」は2018年に始まり、ぬぼこ山以外の何軒かの家でも開かれました。地域のみなさんとの顔の見える関係ができていけば、「知らない間におとなりが空き家になっていた」ということを防げるのではないかと、玉川学園の「まちづくりの会」が中心になって考えています。この地域もお年寄りが増えていきます。この地域もお年寄りの顔の見える関係を築くために始めました。「お庭カフェ」が地域の人たちの交流の輪を広げることにつながればと思っています。

お庭カフェでは集まった皆さんが「見守りかるた」をやっていました。このかるたはだれが作ったのですか?
高齢者の相談窓口である町田市の高齢者支援センター(地域包括センター)のスタッフが知恵を出しあい、地域全体で高齢者を見守っていく手段のひとつとして作りました。かるたを使って遊びながら、地域で高齢者の見守りを行う際に、高齢者の方々の異変に気づくためのポイントを知ることができます。

ぼくは自然や生き物が好きで、ゼミなどを通して地域の自然や生き物に触れてきました。ぬぼこ山周辺では動物を見かけますか?
玉川学園は自然が豊かで、たくさん動物を見かけます。朝には鳥のさえずりがよく聞こえてきます。ぬぼこ山は鶯谷と呼ばれる場所にあり、その名の通りウグイスもよく集まってくるし、ジョウビタキが家の中を覗き込んできたりします。

確かにぼくもこの辺りでたくさん鳥を見かけました。
鶯谷はウグイスが好む竹などが多いですからね。エサを求めて集まってくるようです。鳥だけではなく、最近タヌキも出てきますよ。
このあたりに住んでいるんですか?
最近よく見かけます。道路の排水溝のすき間なんか隠れているようです。



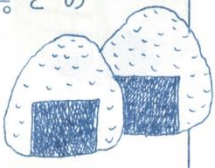
ぬぼこ山にいる玉川学園の仲間たち。夜に歩けばタヌキに会えるかも



ふらりと立ち寄れるお庭カフェ。近所の人たちが談笑しながら、持ち寄ったお茶やお菓子を楽しんでいた

は埋めてしまいましたが、以前はぬぼこ山の上の方にある空き地にトイレを作っていました。タヌキは個々ではなく集団でトイレを使うみたいなので、結構大きな穴が開いていたんですよ。
それはすごいですね。ぼくも見てみたかったです。
あるお宅では、庭先にタヌキが現れるので夕飯のおかずを分けてあげているとも聞きました。自然が豊かな玉川学園だからこそ話ですね。

おむすび食堂、その後



世代を超えて地域の人たちの縁を結ぼうと始まったおむすび食堂。
昨年の玉川つばめ通信増刊号での紹介以降も、月一回程度のペースでさまざまな場所で開催されています。食堂を立ち上げた秋田史津香さんによると、「公園だと子どもが多く集まり、集会所などの屋内だと高齢の方が多し。場所によって参加者の年齢層が偏ってしまうのが悩みだとか。秋田さんが食堂に関わったきっかけは、仕事と育児の両立で大変だったとき、地域の人に相談に乗ってもらって心が軽くなったという経験。「子どもたちの居場所というだけでなく、私のように育児で困っている人たちの支えになれたら」と思いを熱く語ります。幅広い年代の人が集まってご飯を食べたり、話をしたりできるといいですね。昨年暮れにはクリスマスパーティーもしたそうです。将来の目標は毎日開ける場所をつくること。今後も新しいイベントがありそうなので、ぜひ足を運んでみてください。もちろんだれでも大歓迎です。(与、西)